

県北地域有機農業拠点ほ場技術検討会開催結果について

日時 : 令和2年2月20日(木) 午後1時から午後4時まで
場所 : 常陸太田市里美文化センター(常陸太田市折橋町623)ほか
品目 : トマト・ホウレンソウ・大根など60品目(野菜全般)
講師 : 木の里農園園主 布施大樹氏
内容 : 冬季における有機栽培管理技術

県北農林事務所では、県北地域における有機農業の取組を推進するため、常陸太田市の布施大樹氏を講師として『令和元年度県北地域有機農業拠点ほ場技術検討会』を開催しました。

今回は、県内外から有機農業実践者、有機栽培に興味のある農業者等47名が参加しました。

まず、常陸太田市里美文化センターにおいて、冬季における有機栽培管理技術について布施氏からの講演後、機材倉庫・ハウス・肥料置き場・堆肥置き場・ほ場等を実際に見学しながら、幅広く情報交換を行いました。

質疑応答も活発に行われ、参加者からは、「有機肥料等を実際に作っている現場が見られてとてもよかった。」「慣行農業と比較できないほど、土づくりなどに時間と労力をかけているのに驚いた。」「有機農業を知る機会が少ないので、大変良い経験ができた。」「もっと質疑の時間が欲しかった。」等の声を聞くことができました。

【布施氏による説明内容(抜粋)】

- 年間約60品種、250品種の野菜を栽培している。
- 品種の選定は、まず味が良いこと、そして露地での生育に強いものを選んでいく。
- 作付けは、農薬を使用しないために輪作としている。
- 落ち葉やもみ殻を約2年かけて堆肥化しているほか、有機肥料は、発酵肥料・米ぬか・大豆・魚粉・カニガラ等を自分で配合している。
- 出荷先は、野菜ボックスでの契約を約180世帯、レストラン・八百屋等に約20軒。少量ずつ出荷。
- 毎回発行する野菜便りは手書きにこだわり、畑の様子やレシピを掲載している。
- 加工品は、人参ジュース、うどん、納豆、干し野菜など。
- 例年冬季は-10℃位に下がるため資材を組み合わせでの被覆や、トンネル等で冬越しの管理をする。
- 害虫対策の例では、アブラムシ等が越冬しないように除草をするなど留意している。

